

エリア別の公共施設の再編方針

施設配置の考え方（エリアの捉え方）

公共施設の再編を進める上で利便性を維持・向上させていくことが重要です。そこで施設配置の基礎となるエリア設定の考え方として、小金井市都市計画マスタープラン(以下、「都市計画マスタープラン」という。)での位置付けや、市民ワークショップでの意見等を参考としながら、次の2つの視点を軸に展開していきます。

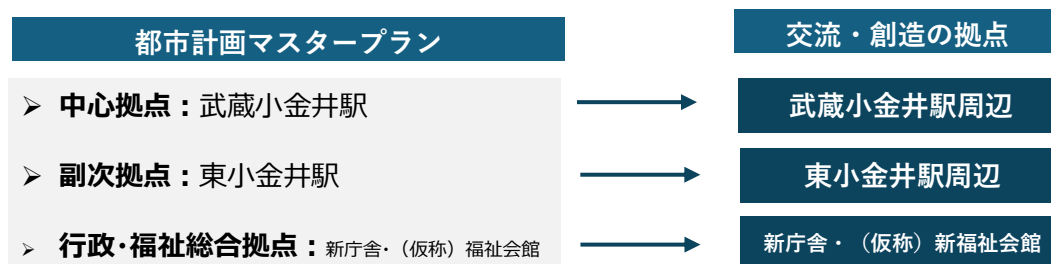
- ・ 鉄道駅周辺や庁舎など、市内外から人が集まりやすい場所を「交流・創造の拠点」として位置づけ、施設・機能の集約や複合化、公共施設の有効活用を進めること。
- ・ 徒歩で過ごせる生活圏として市内を5エリアに区分し、地域コミュニティの暮らしや活動に寄り添いながら、「エリアごとの機能再編」を図ること。

この2つの視点を組み合わせることで、公共施設の有効活用を図るとともに、地域ごとの多様なニーズに応じた、より柔軟で持続可能な施設配置を目指します。

（１）交流・創造の拠点

都市計画マスタープランにおいて都市機能の拠点に位置づけられている、中心拠点、副次拠点、行政・福祉総合拠点を交流・創造の拠点として位置づけます。

交流・創造の拠点では、既存施設や鉄道駅や庁舎等の人の集まる場所を活かした、地域住民に限らず、市内外の方の利用も想定したコミュニティ創造の拠点とします。また、新庁舎・（仮称）新福祉社会館は、行政サービス・福祉サービス提供の拠点として施設の有効活用を図ります。



1）武蔵小金井駅周辺

都市計画マスタープランにおいて、武蔵小金井駅周辺はにぎわいを形成する市の中心としての役割を担う中心拠点と位置付けられています。

中心拠点として、交通結節点としての拠点性の向上や、企業、学校、市民及び市の連携のもとに、産業の育成を推進するとともに、多様な働き方などに対応した都市機能の誘導・集積、さらなるにぎわい・活力の創出を図ること等が求められています。

そのため、小金井 宮地楽器ホールやその前面の広場空間での文化的な活動や交流等を通じた、地域住民同士だけでなく市内外の新たな交流の創造につながる利活用を進めます。

2) 東小金井駅周辺 -----

都市計画マスタープランにおいて、東小金井駅周辺は、中心拠点を補完・連携する役割を担う副次拠点と位置付けられています。

副次拠点として、既存のインキュベーション施設等を活かした、新たな事業・産業の創出を推進するとともに、多様な働き方などに対応した都市機能の誘導・集積、交通結節点としての拠点性の向上、個性豊かで、にぎわい・活力が生まれる拠点の形成を図ること等が求められています。

そのため、東小金井事業創造センターにおける事業・産業創出等を契機とした交流や東小金井駅北口まちづくり事業用地を活用した新たな交流の場づくりを通じた、交流・創造拠点としての機能強化を図ります。

3) 新庁舎・(仮称) 新福祉会館周辺 -----

都市計画マスタープランにおいて、新庁舎・(仮称) 新福祉会館は、行政・福祉機能の集約による総合的サービス提供と災害時における防災の拠点となることから、行政・福祉総合拠点と位置付けられています。

行政・福祉総合拠点として、新庁舎・(仮称) 新福祉会館を中心として、商業、業務及び住宅などが調和した土地利用を推進することが求められています。

そのため、武蔵小金井駅周辺との連携も図りながら、庁舎等の利用を来訪のきっかけとしつつ、地域コミュニティ活動の場としても活用することで新たな交流の創造につながる利活用を進めます。

(2) エリアごとの機能再編

これからの公共施設再編にあたっては、以下の5つのエリアを基本のエリア単位として推進します。この5つのエリアに関しては、徒歩や自転車などで気軽に移動でき、一定のコミュニティのまとまりがあるとともに公共施設の集約・複合化による効果が期待できる、現状の中学校区から設定しました。

各公共施設の建替えを検討する際には、同エリア内に施設との集約・複合化を検討することとし、地域コミュニティの活動の中心となる拠点への機能の集約・複合化を図ります。

